

ほのめ人

①71) コンタクト



戦跡は語る

終戦から66年が経過しました。西持留の四季の森にひっそりと残る無骨なコンクリートの塊は、戦時中に建設されたトーチカ(砲台)です。その存在が、かつてここが戦場であったことを物語っています。

薩摩郷句

兼題「自慢」

客の自慢金取いじやち我慢つ聞つ

(唱) 好かん客じやが 金払れは良し

西ノ園ひらり

イケメンち我が息子ん自慢い嫁ては無し

(唱) 厄介な親い 可哀相しか息子

植村 昭子

沢山自慢友人が来たなあピタツ止ん

(唱) 我もお自慢ち 少す胸いあつ

上村 牛歩

一日越し貫目が増ゆい釣いの自慢

(唱) 百多ん鯛どが 終めな一貫

諸木 小春

昨日は自慢今日は窓口で借い相談

(唱) 各々理由が あいやつとじやろ

北村 虎王

大崎短歌会

兼題「八月十五日に詠む」

大分の航空基地の一隅に終戦詔勅ききし十六歳

原田 葉子

疎開先のお寺の庫裡の一室に玉音放送静かに流る

長重 悦子

停戦のあの日も蝉が鳴いていた悲しく聞きし夏の陽盛り

内田ちどり

終戦の詔勅聞きし平壤の瑞気山広場今も変らずや

穂園 芳江

浜ヶ原空爆のB29下校時に列車の下に避難せしあの日

坂元つる子

大崎俳句会

金昆羅の七百余段蟬しぐれ

中崎ハナエ

阿蘇路ゆく牧草ロール雲の峯

三浦 倫子

螢火や暗闇切つて一文字

春田 昌子

黒南風やフェリーと競いいるか飛ぶ

二見 淑

夕顔は星と睡むやほのぼのと

内田ちどり

夏の月海面照らす舟灯

桑原 正樹

軒並にゴーヤ簾や風涼し

溝口 稔

人権啓発シリーズ⑱

あなたの当たり前が、誰かを傷つけているかも。

～高齢者の人権について考えるための『気付き』のヒント～

- 病院などで、高齢者を子ども扱いするのは仕方ない。
- 親しい高齢者に対して、『もう年なんだから』とつい言ってしまう。
- 〇〇さんではなく、つい『おじいちゃん』『おばあちゃん』と言ってしまう。
- ケガをされては困るので、家事はさせないほうがいい。
- 高齢者の虐待は、よその家庭の問題だ。

みんな、必ず年をとります。たとえ身体が思うように動かなくなっても、子ども扱いはプライドを傷つけています。